永遠の真理

ETERNAL TRUTH

信仰による義認(II)

2011 # **5 H**

「結婚:わたしたちの益のために計画された」「黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ (III)」



いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「信仰による義認 (II)」

4

朝のマナ

「結婚:わたしたちの益のために計画された」

9

神のみかたちを回復する

現代の真理

「黙示録18章の御使と1888年のメッセージ(Ⅲ)」 4/1

The Good Way Series

力を得るための食事

「ミネストローネスープ」

46

お話コーナー

「わたしの右におられる王」

48

教会

【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話: 0494-22-0465 FAX: 0494-26-5059

【高知集会所】

〒 780-8015 高知市百石町 1-17-2 電話: 088-831-9535

【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話:0980-55-8136

アクシフ

ホームページ:http://www.4angels.jp メール:support@4angels.jp

発行日 2011年4月29日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション 〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

イラスト: Getty Images p. 1; Sermonview p.9

あなたの網の目

主は、あなたが福音の網をどのように使うかを学んでほしいと望んでおられる。 多くの人々はこの芸術を学ぶ必要がある。あなたが自分の働きにおいて成功する ためには、あなたの網の目―聖書の適用―が厳密で、意味が容易に識別できる ものでなければならない。そのとき、網の中に最大限に引き寄せることができる。 まっすぐ要点に行きなさい。あなたの説明が自明のものとなるようにしなさい。ど んなに人の知識が偉大であっても、もし他の人に伝えることができなければ何の 役にも立たない。……

小さい女の子がわたしのところに来て、尋ねたことがある。「あなたが午後にお話しなさいますか?」「いいえ、午後は話しません」とわたしは答えました。「とても残念です」と彼女は言いました。「わたしは、あなたがお話になると思って、友だちに何人か来るように言ったのです。どうぞ、牧師に、わたしたちが理解できるような易しい言葉を話して下さるようにお願いしていただけませんか。どうぞ彼にわたしたちは難しい言葉、たとえば『義認』とか『聖化』などの言葉は、理解できないのだとお話しいただけませんか。わたしたちはこれらの言葉の意味がわからないのです」。

この小さい女の子の訴えには、教師や牧師が考慮する価値のある教訓が含まれている。「どういう意味なのかわたしたちがわかるように、易しい言葉で話して下さい」という要請によく注意を払う人は、多くはないのではないだろうか。

あなたの説明を明白にしなさい。なぜなら、わたしは自分たちに言われている多くのことを理解していない人が多いことを知っているからである。聖霊にあなたの言葉を形成し、かたち作っていただきなさい。年齢は進んでいても、理解力はほんの幼な子にすぎない人々が多くいることを覚えて、小さい子供のように話しなさい。……

「わたしの小羊を養いなさい」、「わたしの羊を飼いなさい」とはペテロに与えられた任務であった。「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」(ヨハネ 21:15,16; ルカ 22:32)。聞く人々にとって、福音は救いに至る神の力となる。福音を単純さのうちに提示しなさい。キリストの模範に従いなさい。そうすれば、あなたは自分の生徒たちがキリストのものとなるのを見るという報いを得るようになる。(両親、教師、生徒への勧告 253 ~ 255)

信仰による義認 (II)

御霊の約束

主はご自分の民が信仰において健全であること一彼らのために豊かに備えられ ている偉大な救いについて無知でないこと―を望んでおられる。彼らは、将来の いつか自分たちのために大いなる働きがなされるはずだと考えて、待っていては ならない。なぜなら、働きは今完成しているからである。信徒は自分で神と和ら ぐようにとは要求されていない。彼は決してこうすることはできない。彼は自分の 平和としてキリストを受け入れなければならない。なぜなら、キリストと共に神と の平和があるからである。キリストは罪の重いのろいを木の上でご自分の身に負 うことによって罪に終わりを告げ、ご自分を個人的な救い主として信じるすべての 人からのろいを取り去って下さった。このお方は心のうちの罪の支配力に終わり を告げ、 信徒の生活と品性はキリストの恵みの純粋な品性を証する。 ご自分に求 める人々に、イエスは聖霊をお与えになる。なぜなら、すべての信徒が律法のの ろいと責めから救出されるのと同様に、すべての汚れから救出される必要がある からである。聖霊の働き、すなわち真理の聖化を通して、信徒は天の宮廷にふ さわしいものとされる。なぜなら、キリストがわたしたちのうちに働き、このお方 の義がわたしたちの上にあるからである。これなしには、どの魂も天にふさわし い資格を得ることはない。わたしたちは聖霊の感化とキリストの義によって天の聖 なる雰囲気にふさわしいものとされない限り、天国を楽しむことはない。

天のための候補者となるためには、わたしたちは律法の要求にこたえなければならない。「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。また、自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」(ルカ10:27)。わたしたちはキリストの義を信仰によってつかむ時にのみこのようにすることができる。イエスを眺めることによってわたしたちは生きた拡大する原則を心のうちに受け入れ、聖霊が働きを実行し、信徒は恵みから恵みへ、力から力へ、品性から品性へと進んでいく。彼はキリストのみかたちに同化し、ついに霊的な成長において、彼はキリスト・イエスにある満ちみちた徳の高さにまで到達するの

である。こうしてキリストは罪ののろいに終わりを告げ、信じる魂を罪の行為と影響から自由にして下さる。

キリストだけがこれをなすことがおできになる。なぜなら、「そこで、イエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司となって、民の罪をあがなうために、あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかった。主ご自身、試錬を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである」(ヘブル 2:17,18)。和解とは、魂と神の間のすべての障壁が取り除かれて、神の許しの愛が何を意味するかを罪人が悟ることである。

キリストが堕落した人類のためになされた犠牲のゆえに、神はキリストの功績を受け入れる違反者を正当に許すことがおできになる。キリストは憐れみ、愛、義が神の心から、罪人の心へ流れる水路であられた。「彼は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる」(ヨハネ第一1:9 英語訳)。

ダニエルの預言の中でキリストについてこのお方が「不義をあがない、永遠の義をもたら」すと記録されている(ダニエル 9:24)。すべての魂は次のように言うことができる。「ご自分の完全な服従によって、このお方は律法の要求を満たしてくださった。そしてわたしの唯一の望みは、わたしのために完全に律法に従われたこのお方を自分の身代わりまた保証人として眺めることにある。このお方の功績を信じる信仰によって、わたしは律法の有罪宣告から自由である。このお方はわたしを、律法のすべての要求に応えるご自分の義で覆って下さる。わたしはとこしえの義をもたらすお方のうちにあって完全である。このお方は人間の代理人によって織られた糸は一本もないしみなき衣のうちに、わたしを神に提示して下さる。すべてはキリストのものであり、すべての栄光、誉れ、威光は、世の罪を取り除く神の小羊に与えられるべきである」。

多くの人は、キリストの許へ行くことができるには、何か特別な衝動を待たなければならないと思っている。しかし、必要なのはただ、わたしたちに差し伸べられてきた憐れみと恵みの提供を受け入れることを決心して、まじめな目的のうちに来ることだけである。わたしたちは次のように言うべきである。「キリストはわたしを救うために来られた。主の願いはわたしが救われることであり、わたしは遅滞なくありのままの自分でイエスのみ許へ行く。わたしは意を決して約束を信じる。キリストがわたしを引き寄せて下さったのだから、わたしは答える」。使徒

は、「人は心に信じて義とされ」ると言っている(ローマ10:10)。だれ一人、神の み言葉が禁じている事柄を行い続け、あるいは知っている義務をなおざりにしな がら、心に信じて義とされ、信仰による義認を自分のものとすることはできない。

信仰の実である良い行い

本物の信仰は良い行いのうちにあらわれる。なぜなら、良い行いは信仰の 実だからである。神が心の中で働かれるとき、人は自分の意志を神に明け渡し、 神と共に協力し、生涯のうちに神が聖霊によって働いて下さったことを実現する。 そして、心の目的と生活の実践との間に調和がある。すべての罪は、命と栄光の 主を十字架につけた憎むべきものとして捨て去られなければならない。そして信 徒はキリストのわざを行い続けることによって、漸進的な経験を持たなければな らない。 義認の祝福を維持するのは、継続的な意志の明け渡しによってであり、 継続的な従順によってである。

信仰によって義とされる人々は、主の道を守る心を持たなければならない。人の行いがその告白に見合わないとき、それはその人が信仰によって義とされていない証拠である。ヤコブは、「あなたが知っているとおり、彼においては、信仰が行いと共に働き、その行いによって信仰が全うされ」と述べている(ヤコブ2:22)。

良い行いを生みださない信仰は魂を義とすることはない。「これでわかるように、人が義とされるのは、行いによるのであって、信仰だけによるのではない」(ヤコブ 2:24)。「アブラハムは神を信じた。それによって、彼は義と認められた」(ローマ 4:3)。

キリストの義が着せられることは、義認する信仰を通して実現するものであり、またパウロが非常に熱心に主張した義認である。彼は次のように言っている。「なぜなら、律法を行うことによっては、すべての人間は神の前に義とせられないからである。律法によっては、罪の自覚が生じるのみである。しかし今や、神の義が、律法とは別に、しかも律法と預言者とによってあかしされて、現された。それは、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、すべて信じる人に与えられるものである。そこにはなんらの差別もない。すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。神はこ

のキリストを立てて、その血による、信仰をもって受くべきあがないの供え物とされた。それは神の義を示すためであった。すなわち、今までに犯された罪を、神は忍耐をもって見のがしておられたが、それは、今の時に、神の義を示すためであった。……すると、信仰のゆえに、わたしたちは律法を無効にするのであるか。断じてそうではない。かえって、それによって律法は確立するのである」(ローマ $3:20\sim31$)。

恵みは価しない者への恩寵であり、信徒は自分自身の功績はなく、神に主張する権利もなく、義とされる。彼は、天の宮で罪人の身代わりまた保証人として立っておられるキリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。しかし、彼がキリストの義のゆえに義とされるからといって、自由に不義を行ってよいわけではない。信仰は愛によって働き魂を清める。信仰は芽吹き、花を咲かせ、尊い実の収穫をみのらせる。信仰のあるところには、良い行いがあらわれる。病人が訪問され、貧しいものの世話がなされ、孤児ややもめはなおざりにされることがなく、裸の者は着せられ、貧窮した者は養われる。キリストは良い働きをしながら巡回された。であるから、人がこのお方と結合するとき、彼らは神の子らを愛し、柔和と真理が彼らの歩みを導くのである。顔の表情が彼らの経験を表し、人々は彼らがイエスと共にいて、このお方から学んだことを知るようになる。キリストと信徒は一つになり、そしてこのお方の品性の麗しさが、力と愛の源と生きてつながっている人々のうちにあらわれる。キリストは義認する義と聖化する恵みの大いなる保管者であられる。

すべての人はこのお方の許へ来て、このお方の満ちみちた徳を受けることができる。このお方は、「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」と言われる(マタイ 11:28)。そうであれば、すべての不信をわきに捨て、イエスの言葉に耳を傾けようではないか。あなたは休みを欲している。あなたは平安を切望している。そうであれば、心から次のように言おう、「主イエスよ、わたしはまいります。あなたがわたしにこの招きを与えて下さったからです」。このお方を確固たる信仰をもって信じなさい。そうすれば、このお方はあなたを救って下さる。あなたはあなたの信仰の創始者であり、完成者であられるイエスを仰いできたであろうか。あなたは真理と恵みに満ちたお方を眺めてきたであろうか。あなたはキリストだけがお与えになることのできる平安を受け入れたであろうか。もしそうしてこなかったのであれば、このお方に明け渡

し、このお方の恵みを通して、高潔な高める品性を求めなさい。不変の確固たる 快活な精神を求めなさい。命のパンであられるキリストを食しなさい。そうすれ ばあなたはこのお方の品性と精神の麗しさを表すようになる。

引用参考文献

62章 セレクテット・メッセージ 1巻 394~398

神のみかたちを回復する

Restoring the Image of God



5月 「結婚:わたしたちの益のために計画された」

ふさわしい助け手

「人は、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獣とに名をつけたが、人にはふさわしい助け手が見つからなかった。」「また主なる神は言われた、『人がひとりでいるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう。』」(創世記2:20,18)

主はご自分のすべての被造物のうちで、この最後にして最も気高い者を喜ばれ、彼が完全な世界の完全な住民となるよう計画された。しかし、人が孤独に暮らすのはこのお方のご目的ではなかった。(ユース・インストラクター 1899 年 8 月 10 日)

アダムが創造されたあとで、彼に名をつけてもらうために、すべての生物が、彼の前につれてこられた。彼はどの動物も対になっているのを見た。しかし、それらの中には、彼に「ふさわしい助け手が見つからなかった」。神が、地上で創造なさったすべての生き物の中には、人間にふさわしいものはいなかった。また神は言われた、「人がひとりでいるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう」(創世記 2:20,18)。人間は孤独な生活をするように造られたのではない。彼は、社交的な存在でなければならなかった。もし伴侶がなければ、エデンの美しい光景も、愉快な労働も、完全な幸福を与えることはできなかったことであろう。天使たちとの交わりでさえ、同情と伴侶を求める彼の願望を満足させることはできなかった。愛し愛される同じ性質のものがいなかったのである。

神ご自身が、アダムに伴侶をお与えになった。神は、「彼にふさわしい助け手」 すなわち、彼にちょうど合った助け手、彼の伴侶となるにふさわしく、彼と一つに なって、愛し、同情することができる者をお与えになった。」(人類のあけぼの上 巻 20.21)

神は男から女を造られた。それは女が男の伴侶となり助け手となり、彼と一体となって彼を慰め、励まし、祝福し、その代わりに彼が女の力強い助け手となるためであった。……

キリストから発散する天来の愛は人間の愛情をこわすことは決してなく、かえってそれを包含する。人間の愛はそれによって洗練され、きよめられ、高められ、高潔にされる。人間の愛情は天の性質と結合し、天に向かって成長するように訓練されるまでは決して尊い実を結ぶことはできない。イエスは幸福な結婚、幸福な炉辺を見ることを望まれる。(アドペンチスト・ホーム 99,100)

助け手としての女

「そこで主なる神は人を深く眠らせ、眠った時に、そのあばら骨の一つを取って、その所を肉でふさがれた。主なる神は人から取ったあばら骨でひとりの女を造り、人のところへ連れてこられた。」(創世記 2:21,22)

エバは、アダムのわきから取られたあばら骨によって創造された。このことは、彼女がかしらになって彼を支配するのでもなければ、彼よりは劣った者として彼の足の下に踏みつけられるものでもなく、同等のものとして、彼のかたわらに立ち、彼に愛され、守られるものであることを示している。男の一部分、彼の骨の骨、彼の肉の肉として、彼女はアダムの第二の自分であった。そしてこの関係には、密接な結合と深い愛情がなければならないことを示された。「自分自身を憎んだ者は、いまだかつて、ひとりもいない。かえって、・・・・おのれを育て養うのが常である。」「それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである」(エペソ5:29,創世記2:24)。

神は、最初の結婚をとり結ばれた。だから、結婚式の制定者は、宇宙の創造主である。「結婚を重んずべきである」(ヘブル13:4)。それは、神が人間にお与えになった最初の賜物の一つであった。また、それは、堕落後、アダムが楽園の門から持って出た二つの制度のなかの一つである。婚姻関係に関する神の原則をわきまえ、それに従うときに、結婚は祝福である。それは、人類の純潔と幸福を守り、人間の社会的必要を満たし、肉体的、知的、道徳的性質を高める。(人類のあけぼの上巻 21)

初めに安息日の律法が人に与えられたとき、結婚の律法も与えられた。そのとき神はご自分の二つの大いなる賜物一伴侶としての女と休息の日としての安息日一を人にお与えになった。結婚制度はキリストの祝福を受けており、それは聖なる制度としてみなすべきである。真の宗教は主のご計画に相反するものではない。神は、女が聖なる婚姻で人と結ばれ、栄誉の冠となる子供を育て、天の家族の象徴となる家族にすることを定められた。(原稿リリース 10 巻 197)

結婚関係におけるあなたの交わりは、親密で愛情深く、きよらかで高貴で、あなたの生活に霊的力を吹き込むものでなければならない。それは、あなたがたが神のみことばが要求しているとおりのものとなるためである。(アドペンチスト・ホーム 114)

互いに結び合う

「人は言った。『これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉。男から取ったものだから、これを女と名づけよう。』それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」(創世記 2:23,24)

神ご自身が聖なる夫婦を結びつけられた。そしてこの最初の結婚がすべての 結婚の模範となるべきである。(ユース・インストラクター 1899 年 8 月 10 日)

最初の聖なる夫婦を造り、彼らのために楽園を造られたお方は、結婚制度に印を押し、エデンで最初の儀式を執り行われ、そのとき明の星は共に歌い、神の子らはみな喜びよばわった。(天国で202)

創造主は聖なる二人に結婚の契りを結ばせて、「人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである」と仰せになった(創世記 2:24)。創造主は世の終わりに至るまでのすべてのアダムの子らのために、結婚の律法を宣言された。永遠の父なる神ご自身がよしと宣言されたのは、人間にとって最高の祝福と発達の律法であった。(祝福の山 79)

もし心がわたしたちの家族の中で優しく保たれているなら、もしお互いの好みや意見に気高く寛大な敬意を払うなら、もし妻が夫に礼儀正しい行いで、自分の愛を表す機会を探し求めているなら、また夫が同じ考えを表しつつ、妻を親切に評価するなら、子供たちは同じ精神にあずかるものとなる。感化力は家中の者に浸透し、家族の中でなんという不幸の潮流がなくてすむことであろうか!

結婚の契約において、男女は取引、すなわち生涯の投資をしたのである。であるから、彼らは、いらいらした言葉や不満の言葉を押さえるために、結婚以前よりなおさら注意深く、最大限に努力しなければならない。なぜなら今や彼らの運命は、夫と妻として一生の間結ばれており、互いの価値は、結婚前にそれほど熱心に求め、重んじた愛を持ち続け、新鮮に保つためになされる骨折りの努力の量にちょうど比例して評価されるからである。(天国で206)

天のもっとも麗しい型は、主の御霊が統括しておられる家庭である。(サインズ・オプ・ザ・タイムズ1892 年 11 月 14 日)

人はいつ結婚の準備ができるか

「外で、あなたの仕事を整え、畑で、すべての物をおのれのために備え、その後あなたの家を建てるがよい。」(箴言 24:27)

あなたは自分自身の品性が完全に確立する前に、結婚関係に入ろうと熱望し、 家族の世話を引き受けるべきではない。(教会への証 5 巻 74)

わたしは……自分が目指すべきだと考えてきた高い標準に到達するための努力において、知識と経験と成功を得るまでは、若い男性にはめとることがないように、また若い女性にはとつぐことがないようにと、警告する。(出版伝道 74)

むかし、花婿は結婚の約束が批准される前に、ある一定の金額、あるいはその時の事情に応じて同額に値する他のものを、妻の父親に収めねばならない習慣があった。これは結婚関係に対する保障と見なされた。父親たちは、家族を養う準備もできていない人に、自分の娘の幸福をまかせることは安全でないと考えていた。彼らが事業をうまく処理して土地や家畜を手に入れる力がなく、節約する心がなければ、彼らの生活は役に立たないものになるとおそれられた。だが妻のために支払うものが何もない人のために一つの方法が設けられていた。彼らは、要求された結納金に従って定められた一定の期間、愛する人の父親のために働くことを許されていた。……

この古代の習慣は、ラバンがしたように、ときには悪用されることがあったにしても、よい結果をもたらした。花婿が花嫁を得るために働くことを要求されたとき、性急な結婚は防ぐことができた。家族を養う彼の能力ばかりでなく、彼の愛情の深さをためす機会もあったわけである。今日これと反対の方針をとるために多くの悪が生じている。

男はだれでも、経済的能力がないことは許されない。親切で、気立てがやさしく、寛大でよい人であり、クリスチャンであるが、自分の仕事をうまく処理する能力がないといえる人がおおぜいいる。金銭に関する限り彼はただの子供である。彼は独立の原則を理解し実行するよう親に教えられて成長しなかったのである。(アドペンチスト・ホーム 90, 91)

夫一ハウスバンドーの上には、親切と愛と調和という絆によって家庭をひとつにまとめる大きな責任がある。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1882年2月23日)

真の女性の美しさ

「賢い妻はその夫の冠である、恥をこうむらせる妻は夫の骨に生じた腐れのようなものである。」(箴言 12:4)

家族の幸福は、大いに妻であり母親である者にかかっている。

若い青年は、彼のかたわらに立って生涯の重荷を分かち合うにふさわしい人、すなわちその感化力が彼を高尚にまた精練し、その愛のうちに彼を幸福にする人をさがしなさい。結婚生活はロマンスだけではない。そこにはそれなりの真の困難や家庭のこまごました事情がある。妻は自分のことを、面倒を見てもらう人形ではなく、女性として見なさなければならない。すなわち自ら、想像上ではなく真の重荷を引き受け、理解と思いやりの生涯を送り、自分自身のことよりも考えるべき他のことがあることを考慮しなければならない。(信仰によってわたしは生きる 256)

当世風に着飾った若い女性が通りにいた数名の紳士のわきを過ぎるときに、そのうちの一人が彼女についていくつか尋ねた。答えは、「彼女は自分の父親の家で美しい飾りを作っています。しかし、それ以外は何の役にも立ちません」であった。(教会への証4巻644)

旅行中、わたしは家庭の義務のための準備がまったくできないまま結婚生活に入った女たちが幸せでないことを見た。彼女たちは、もっとも厳粛な誓いによって果たすことに同意した責任のある立場にふさわしくなるための訓練や教育を若いときに受けなかった。親は大きな間違いを犯した。子供のときに、彼らは「思いを豊かにするために」骨折り仕事を免除された。彼らは楽器を引くことはできたが、責任を引き受ける教育を受けなかった。彼らは自分たちの思いを小説に没頭させたが、自分たちの家を秩序のうちに保とうとする愛好心はなかった。……青年たちの品性は甘やかしすぎる母親によって台無しにされてはならない。親は、自分たちが家庭の仕事や経済において自分たちの娘を徹底的に教育することを怠るとき、彼女たちの将来の結婚生活を惨めにするような品性を与えているのだということを、考慮すべきである。(健康改革者 1873 年 5 月 1 日)

わたしは主の御霊によって、ふるまいの慎ましさを大切にし、恥を知る節度を もって、控えめになることを、信心を公言するわたしの姉妹たちに強く勧めるよう にとかりたてられるのを感じる。(教会への証 2 巻 459)

結婚はわたしの奉仕をさらに増進するであろうか

「もし妻に結ばれているなら、解こうとするな。妻に結ばれていないなら、妻を迎えようとするな。しかし、たとい結婚しても、罪を犯すのではない。また、おとめが結婚しても、罪を犯すのではない。ただ、それらの人々はその身に苦難を受けるであろう。わたしは、あなたがたを、それからのがれさせたいのだ。」(コリント第一7:27,28)

親や子供、妻、夫、家、土地、あるいはそのほか地上のどんな宝でも、友人であれ所有物であれ、利己的に愛することによって、思いや時間や奉仕を神からそらさせる偶像としてはならない。富を愛して仕える人は、神を最高に愛して仕えることはできない。友人や親族を不適切な愛情をもって愛するとき、彼らは神のおられるべき場所を心から奪うようになる。……

真理を受けた人はみな、個々に自分で神の許へ行き、神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる決心をしなければならない。第三天使のメッセージを信奉する人々は、人間を頼みとしてはならない。(ホーム・ミッショナリー1894年12月1日)

現実の生活には、影や悲しみがある。すべての魂に問題が訪れる。サタンはつねにすべての人の信仰を揺るがせ、勇気と希望をくじこうと働いている。あなたの夫は、自分が死が分かつまで愛し、大切にすると誓った女性の性質がどのようなものであるかを見て、恐ろしいことに気がついた。彼は自分が、自分のことしか考えない人に縛られているのを知る。あなたの想像上の試練、あなたの作り出した身体的障害は、前途をもっとも悲観的にする。(原稿リリース 16 巻 311)

わたしはバトラー長老のうちに、有用な人、知性と聖書研究の人を見る。彼の伝道は、もしその働きにおいて彼を助けることのできる女性と一緒になるなら、はるかにもっと価値のあるものとなる。控えめで知的な女性の助けがあれば、彼がどれほどのことができるか、考えてみなさい。彼はひとりで生活し、ひとりで旅行するままにしておいてはならない。彼が良い妻を見つけるのが早ければ早いほど、彼のための働きには益となる。妻は男の同伴者がしてあげられないことを彼のためにすることができる。たとえば、彼の衣服に気を配り、それにほこりがついていないか、彼がいつでも大会衆の前に立つ準備ができているかを調べることができる。(リタイヤノソ・イヤーズ 118,119)

キリストの任務に集中する

「わたしはあなたがたが、思い煩わないようにしていてほしい。未婚の男子は主のことに心をくばって、どうかして主を喜ばせようとするが、結婚している男子はこの世のことに心をくばって、どうかして妻を喜ばせようとして、その心が分れるのである。未婚の婦人とおとめとは、主のことに心をくばって、身も魂もきよくなろうとするが、結婚した婦人はこの世のことに心をくばって、どうかして夫を喜ばせようとする。わたしがこう言うのは、あなたがたの利益になると思うからであって、あなたがたを束縛するためではない。そうではなく、正しい生活を送って、余念なく主に奉仕させたいからである。」(コリント第一7:32~35)

わたしたちはキリストがその昇天の直前に、ご自分の弟子たちにお与えになった任務がわたしたちにも与えられていることを信じると主張している。わたしたちはそれを果たしているであろうか。(レピュー・アンド・ヘラルド 1903 年 3 月 3 日)

あなたがたは両方とも、より大きな神への献身を励ますべきである。謙遜に見 張る唯一の道は、祈りをもって見張ることである。一瞬たりとも、座ってひとりで 楽しみ、自分自身の楽しみと便利さを検討することができると思ってはならない。 キリストの生涯がわたしたちの模範である。このお方は悲しみの人で病を知って おられた。このお方は傷つけられ、砕かれた。あなたは自分の立場にあまりにも 満足している。あなたはたえず見張る必要がある。さもなければ、サタンはその 巧妙さであなたを欺き、あなたの思いを堕落させ、矛盾と徹底的な闇の中へと導 く。あなたの警戒は、神に依存する謙遜な精神によって特徴づけられているべ きである。それは誇り高い自己に信頼する精神ではなく、自分の個人的な弱さ の深い自覚と神の約束への幼子のような信頼をもってなされるべきである。

今、第三天使のメッセージの真理を宣布するという働きは、そのメッセージが 当初始まったとき、すなわち人数が少なく、わたしたちが狂信者だと思われてい たときより、たやすくやりやすい。メッセージの発生および初期の進展において 責任をになった人々は、戦いと悲嘆と魂の苦悩が何であるかを知っていた。夜も 昼も、重荷が彼らにおもくのしかかった。彼らは苦しみに押しつぶされているとき でさえ、休息や都合は考えなかった。(教会への証3巻326)

わたしたちの選択を支配すべき現代の真理

「不信者と、つり合わないくびきを共にするな。義と不義となんの係わりがあるか。光とやみとなんの交わりがあるか。キリストとベリアルとなんの調和があるか。信仰と不信仰となんの関係があるか。」(コリント第二 6:14,15)

世は、つりあいの取れていない結婚の結果、今日、悲惨と罪で満ちている。 多くの場合、夫と妻が、自分たちの気質が決して交じり合うことのできないもの であることに気づくのに数ヶ月しかかからない。そして、その結果は、天の愛と調 和だけが存在すべき家庭の中に不一致が行き渡ることになる。……

世俗的な姻戚(いんせき) 関係を形成することは危険なことである。サタンは、多くの若い男女の結婚に立ちあう時が、彼らの宗教的な経験と有用性の歴史を閉じることをよく知っている。しばらくは、彼らはクリスチャン生涯を送る努力をするかもしれない。しかし、彼らの奮闘はことごとく反対方向へ向かう着実な感化力を受ける。かつては自分たちの喜びや希望を語ることを特権として感じたが、まもなく、彼らは運命を共にするために結び連なった人がこれらの事柄に関心を持っていないのを知って、会話の話題にしようとしなくなる。こうしてサタンは、知らぬうちに彼らの周りに懐疑論というくもの巣を巻きつけて、尊い真理を信じる信仰は心から死滅してしまうのである。(ユース・インマストラクター 1899 年8月10日)

神の真理は他のなにものよりも尊いものとされるべきである。そして妻を得るために真理を犠牲にしようとする男性は、神の律法に対する彼の評価が非常に低いレベルだということ、また自己満足が「主はこう言われる」にまさって浮上していることを表している。自分自身の衝動を神のみ言葉よりも優先する男性について、女性は非常に恐れるほうがよい。なぜなら、彼は結婚が意味することについて、正当な評価をしていないからである。自分の妻を、神への不忠実によって得る者は、自分たちの結婚に神の祝福がとどまることを期待することはできない。彼は発覚を恐れて嘘をつき、自分のきよくない情欲を満足させたり、自分の恋にふけったりするために神の律法を犯すので、幸せになれないのである。自分の神に対して忠実でない者は、自分の妻に対して忠実になることはできない。(原稿リース 10 巻 191)

わたしたちはだれとの交わりを大事にしているか

「ふたりの者がもし約束しなかったなら、一緒に歩くだろうか。」(アモス 3:3)

わたしたちは終わりの時代に生きており、結婚の主題に関する熱狂ぶりがキリストの来臨の近いしるしの一つとなっている。これらの問題において神は勧告を求められていない。神に捧げられていない心の衝動を実行に移すために、宗教、義務、原則が犠牲にされている。当事者の結合をめぐって、大々的な見せびらかしや大喜びがあるべきではない。幸せな結果に終わる結婚、神の承認を得て、当事者たちがより神に栄光を帰す立場におく結婚は、百に一つもない。みじめな結婚の邪悪な結果は、数知れない。それらは衝動から取り結ばれたのである。問題を公平に再考することはほとんど考えられず、経験者の助言は、時代遅れだと見なされている。

衝動と聖化されていない情欲が、純粋な愛の代わりに存在している。多くの人々が単に恋愛感情を喜ばせるために結婚関係に入ることによって、自分自身の魂を危険に陥れ、神ののろいを自分たちにもたらしている。……真理を信じると公言する者が、……不信者と結婚することによって大変な間違いを犯してきた。彼らは不信者の相手が真理を信奉するようにとの希望を抱いてきた。しかし、自分の目的が果たされると、彼はますます以前よりも真理から遠ざかる。そして信じている者を信仰から引き離すための敵の巧妙な働きと絶え間ない努力を始めるのである。……

時々、次のような嘆願がなされる。不信者は宗教に好意的であるし、連れ合いとして望ましい点をすべて持っている、ただ一点だけ一彼がクリスチャンではないということ一を除いては。信徒たちのよりよい判断力が、不信者と生涯にわたって結合することの不適正さを提言しても、十のうち九割は、傾向が勝利する。祭壇で誓いがなされる瞬間から霊的な衰退が始まる。宗教的な熱意が弱まり、砦が次々と陥落し、ついには両者ともサタンの黒い旗印の下に、相共に立つようになる。(教会への証 4 巻 503 ~ 505)

何百もの人々が、改心していない人と結婚した結果、キリストと天国を犠牲にしてきた。キリストの愛と交わりが彼らにとってあまりにも価値が低く、みじめな死すべき人間との交わりの方を選ぶということがあり得るであろうか。(同上 507)

不信者がさ迷い出させる

「また彼らと婚姻をしてはならない。あなたの娘を彼のむすこに与えてはならない。かれの娘をあなたのむすこにめとってはならない。それは彼らがあなたのむすこを惑わしてわたしに従わせず、ほかの神々に仕えさせ、そのため主はあなたがたにむかって怒りを発し、すみやかにあなたがたを滅ぼされることとなるからである。」(申命記 7:3,4)

不信者に愛情を捧げることの危険性が認識されていない。若い人の思いの中では、結婚がロマンスでまとわれていて、想像力がおおいかぶせたこの特徴を脱がせ、またその思いに結婚の誓いにかかわる重い責任の自覚を印象づけるのは難しい。この誓いは、死の手のほか何ものも断ち切ることのできない二人の個人の運命を結びつける。……

結婚生活の幸福と繁栄は、当事者の一致にかかっている。肉の思いが、いかにしてキリストの思いに同化している思いに調和することができるであろうか。一人は肉に蒔き、自分自身の心の衝動に従って考え、行動しているのに対し、もう一人は霊に蒔き、利己心を抑え、傾向に勝利し、自分が僕だと公言しているご主人への従順のうちに生きようと努めている。このように、嗜好にも、傾向にも、目的にも永続的な違いがある。信徒が、原則にしっかりと固着することによって、悔い改めない者を勝ち取るのでなければ、その人は、往々にしてそれがつねであるように、落胆して、天とは何の関係もない人とのみじめな交わりのために、自分の宗教的な原則を売り渡してしまう。

神は、昔のご自分の民に、他の民との雑婚を厳しく禁じられた。今、この禁止はヘブル人が偶像礼拝者と結婚し、異郷の家族とつながりを形成することを防ぐためにもうけられたのだとの訴えがなされる。しかし、異教徒たちは、今日の悔い改めない人々、すなわち真理の光を持っていながら、なお頑固にそれを受けることを拒む人々よりも、望ましい状態にあった。今日の罪人たちは、福音の光がその周りをはっきりと照らしている分だけ、異教徒よりも罪深い。彼は良心を犯しており、故意に神に対する敵となっている。(教会への証4巻507,508)

親の知恵を尊重する

「わが子よ、あなたは父の教訓を聞き、母の教を捨ててはならない。」(箴言 1:8)

イサクは、世界の祝福となる約束の相続人となり、神から大きな栄誉を受けた。 しかし、彼が四十才のとき、経験豊かで神を恐れるしもべに命じて、彼の妻を選ばせるという父の判断に従った。(人類のあけぼの上巻 186)

まだ十代を出ない若者は、自分と同じように相手が一生の伴侶として適当かどうかの判断に欠けている。(アドペンチスト・ホーム 77)

未成熟な結婚は、今日存在する莫大な量の悪を生み出している。人生のあまりに早い時期に入った結婚生活によって、身体的な健康も精神的な活力も促進されない。この主題について、あまりにもわずかな理性しか働かされていない。多くの若者は衝動から行動する。この一歩、すなわち一生の祝福もしくはのろいとなるべき善か悪へ深刻な影響を与える一歩が、あまりにもしばしば性急に、気持ちの衝動の下に踏み出される。多くの人々はこの問題において理性や教えに耳を傾けようとしない。彼らはこの問題をクリスチャンの見地から考えることに気乗りがしない。

学校の生徒によって婚姻関係を形成するのは、正しいことでも適切なことでもない。若い男女は、人生の責任を負うのにあらゆる方法において適性がなく、自分たちの愛情を守らない。そして多くの自分自身の世話をするのにあまりにも若すぎる者、自分自身の思いを知るのに若すぎる者、すなわち家庭を幸せにし、自分自身を扶養することができるかどうかを一度も試されたことのない多くの者が、結婚生活の責任を引き受ける。

多くの母親が、それまで親を敬い、従順であった息子や娘が、この重要な関係に関して助言を受け入れないために、墓に下ってきた。青年は親や友人の勧告に関係なく、神の承認に無頓着にこの一歩を踏み出す。このお方の「あなたの父と母を敬え」というご命令が無視されるため(出エジプト記 20:12)、このお方の約束は成就することができない。このお方の祝福は向こう見ずなわがままの道をとる人々にとどまることはできない。(ユース・インストラクター 1899 年8月10日)

わたしのために神に選んでいただく

「家と富とは先祖からうけつぐもの、賢い妻は主から賜わるものである。」(箴言 19:14)

キリストのうちにあるときにはじめて結婚の縁組は安全である。人間の最も親密な愛のきずなは神の愛から受けるべきであり、キリストが支配なさるところにのみ深い真の無我の愛がありえるのである。

愛はわたしたちがイエスから受ける尊いたまものである。純潔な、清い愛情は 感情ではなく、一つの原則である。真の愛に基いて行動する者は不合理でも盲 目でもない。聖霊によって教えられ神を第一に愛し、隣人をおのれのごとくに愛 するのである。

結婚しようと考えている人は一つ一つの感情をよく考え、生涯の運命を共にしようと思う相手に表われてくる品性のあらゆる発達とあらゆる情操を一つ一つよく見守るべきである。そして結婚の縁組に至るまで、しとやか、単純、真実、それに、神を喜ばせ、あがめる熱心な気持をもって一歩一歩進むべきである。結婚はこの世におけるその人の将来にも、また、きたるべき国における生命にも影響を及ぼす。真実のクリスチャンは神が承認できないような計画を立てることをしない。

神をおそれる、敬けんな両親に恵まれているならばその助言を求めなさい。自己の希望と計画を発表し、両親が生涯のうちに経験し、学んだ教訓を聞きなさい。そうすれば多くの心痛を防止することができよう。しかし、だれよりもまず、キリストを相談相手とし……なさい。

こうした指導のもとに若い婦人は、純潔で男らしい性質をもち、勤勉で大望に燃え、正直で、神を愛し、おそれる人だけを配偶者として受け入れるべきである。また青年は妻の分としての人生の重荷を負うに適した人、その感化が自分を向上させ、精練し、その愛が自分を幸福にするような人を伴侶として求めるべきである。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 330,331)

もし男や女が、結婚を考える前に一日に二回祈る習慣があれば、彼らはそのような一歩が予定されているときには、一日に四回祈るべきである。結婚はあなたの一生を、現世においても来世においても感化を与え、影響するものである。(レビュー・アンド・ヘブルド 1888 年 9 月 25 日)

キリストのような愛の泉

「主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労はむなしい。」(詩篇 127:1)

もしわたしたちが神のみ言葉を行う者であれば、わたしたちは神の御声に注意を払い、自分たちの十字架をになってイエスの後に従い、時々刻々自己を屈服させる。神の律法が心のうちに記されなければならない。さもなければ、わたしたちは決してその聖なる規則を実行することはない。わたしたちは神の御霊を持たなければならない。さもなければ、家庭の中で決して調和を持つことはできない。妻がもしキリストの御霊を持っているならば、自分の言葉に注意する。彼女は自分の精神を支配し、従順なものとなるが、自分が奴隷のようには感じることはなく、自分の夫の連れ合いであることを感じる。もし夫が神の僕であれば、彼は自分の妻に対して威張ることなく、専横的になったり、厳しくなったりはしない。わたしたちは家庭の愛情を大切にするのに、注意を払いすぎることはない。なぜなら、主の御霊が宿るなら、家庭は天の型だからである。

もし主のみ旨が実行されるなら、夫と妻は互いに敬い、愛する。そして家族の輪の平和と一致を傷つける傾向のあるものは何でも抑制される。親切と愛、優しさと寛容の精神が大切にされる。わたしたちが他の人々に与える愛は、自分たちに反射して戻ってくる。わたしたちは蒔いたものをまた刈り取るのである。もし栄光の望みであられるキリストが内に形づくられるなら、夫と妻は互いに自分たちの不適応さについて話すことはない。もしキリストが妻の心に宿っているならば、夫の心にキリストが宿っているとき、彼と同意する。もし一方が過ちを犯すと、もう一方がキリストのような寛容を働かせ、互いに冷たく離れていくようなことはない。

もし神のみ言葉に従うなら、家庭は最高の種類の伝道の働きの中心地となるが、家庭生活において不一致の状態にあり、主の言葉を実践しない人々は、キリストの恵みによって変えられない限り、決して天の住まいに入るのにふさわしくなることはない。もし主が天に入ることを彼らに許されたとしても、幸せではないであろう。なぜなら、彼らはそこで自分たちを喜ばせないようなものを見つけるからである。地上で決して愛さなかっただれかが天にいるので、彼らはその人たちを祝福の場所から追い出したいと願うことであろう。(原稿リリース 13 巻 77,78)

互いに高めあう

「妻を得る者は、良き物を得る、かつ主から恵みを与えられる。」(箴言 18:22)

あなたの結婚生活において、互いに高め合うよう努めなさい。ありふれた安っぽい話や行動に身を落としてはならない。あなたの日常の会話ともっともプライベートな人生の歩みにおいて、その聖なる信仰の高尚な、人を高める原則を示しなさい。つねに互いの感情に気をつけ、優しくありなさい。あなたがたのうちいずれも、初めてであっても、ふざけて、からかうように、冗談交じりに互いをとがめるのを許してはならない。これらのことは危険である。それらは傷つける。傷は隠せたとしても、現にその傷は存在しており、平安は犠牲にされ、幸福は危険にさらされる。……

いつも親切に話しなさい。あなたの声に、他の人がいらだちだと受け取るような調子を入れてはならない。あなたの声の調子でさえも調節しなさい。ただ愛と親切と温和さだけがあなたの表情とあなたの声に表現されるようにしなさい。自ら進んで日光を降り注ぎ、決して雲を残してはならない。……

たとえ、あなたの方針が自分には正しいとしか思えなくとも、頑固になってはならない。あなたは人に譲り、寛容になり、親切で、優しい心を持ち、あわれみ深く、礼儀正しくあり、いつも生活上の小さな礼儀や、優しい行動、優しく快活な励ましの言葉を生きと保っていなければならない。(天国で204)

もし男が、また女も、愛を生き生きと保ち、自分の好む連れ合いを得るために必要だと感じた敬意と注意と感謝の優しい言葉や生活上の小さな礼儀を培い続けるならば、どれほど多くの問題、またなんという苦悩と不幸の潮を避けることができることであろう。もし夫と妻がただ愛を育むこれらの注意を培い続けさえすれば、彼らは互いの交わりのうちに幸福になり、彼らの家族には聖化する感化力が及ぶようになる。彼らは自分たちのうちに幸福の小さな世界を持ち、この世界の外に出て、新しい魅力や新しい愛の対象を求めようとの願いを持つことはない。(同上 206)

自分自身の関心をイエス・キリストと結びつけ、このお方のみ腕とその保証にたよるとき、夫と妻は神の御使たちが称賛するこの一致のうちに幸福を分かち合うことができる。結婚は彼らの有用性を減じることなく、かえって強化するのである。(信仰によってわたしは生きる 259)

わたしたちの家庭をうるわしくする

「すべて主をおそれ、主の道に歩む者はさいわいである。あなたは自分の手の 勤労の実を食べ、幸福で、かつ安らかであろう。あなたの妻は家の奥にいて多くの 実を結ぶぶどうの木のようで……ある。」(詩篇 128:1 ~ 3)

多くの人々は、自分たちの家庭生活において、あまりにも外見を保とうと一生 懸命になるがゆえに不幸である。彼らは自分たちの仲間一実は彼らも彼らの繁栄 も気にかけていない人々一の賞賛を得るために、多くの資産を費やし、際限なく 労する。家庭の備品のために、品物が次々と必要不可欠だとみなされ、ついに は多くの高価なもの、すなわち目には一時の満足を与えるが、家族には少しも心 地よさを増し加えないものが加えられることになる。同時に、すべてこれらの物は、 力強さや忍耐に重い負担をかけ、主の奉仕に費やされるべき貴重な時間を消耗 してしまう。

神の尊い恵みは、本当の重要性はない事柄の二の次とされており、楽しみのために物を集めながら、その一方で幸福のための余地をなくしている。彼らは自分たちの所有物が、それらによって得るであろうと期待した満足を与えないことを見出すようになる。……

衣服や家の飾りが、幸福な人々を作ることはない。かえって、柔和と親切と愛を持つことにより、もっともいやしい住まいがうるわしくされ、もっとも貧しい家族が富んだものにされる。気持ちのよい声、優しいふるまい、またすべての行動のうちに表現される真心からの愛情は、あばら屋でさえもっとも幸福な家庭とし、そこを創造主は是認をもって眺め、天使たちは引きつけられるのである。(健康改革者1876年11月1日)

愛情が水晶のようにきれいで、その純潔さにおいてうるわしいものであっても、それでもテストされ、試されていないがために浅いことがある。キリストを万事につけ、最初と最後と最高としなさい。絶えずこのお方を眺めなさい。そうすればこのお方を愛するあなたの愛は、試練のテストに服するとき、日ごとにますます深くますます強くなる。そしてこのお方を愛するあなたの愛が増すにつれ、互いに対するあなたがたの愛は、ますます深くますます強く成長するのである。(信仰によってわたしは生きる 252)

キリストの態度を覚える

「雨の降る日に雨漏りの絶えないのと、争い好きな女とは同じだ。」(箴言 27:15)

ある〔妻たち〕は、……自分たちの夫にとって何の助けにもなっていないが、 それでも第三天使のメッセージを公言する。彼らは、神のみ旨や、いかに自分た ちの忠実な祈りや注意深い歩みによって自分たちの夫の手を支えることができる ことよりも、自分自身の願いや喜びを研究する。わたしは彼らのうちのある者は、 非常に頑固で利己的な道を選ぶために、サタンが彼らを自分の道具となし、彼 らを通してその夫の感化力や有用性を台無しにしているのを見た。彼らは自分た ちが少しでも苦境におかれると、平気で不平を言い、つぶやく。彼らは昔のクリ スチャンたちが真理のためにどれほど苦しんだかを忘れている。そして彼らは自 分たちの願いや、やり方を通し、自分自身の意志どおりにしなければ気がすまな い。彼らは自分たちの主人であられるイエスのお苦しみを忘れている。彼らは病 を知っておられた悲しみの人―まくらするところもなかったお方を忘れている。彼 らはいばらの冠が刺し通した聖なる額を覚えていようともしない。彼らはご自分 の十字架をカルバリーまで背負い、その重さで倒れてしまわれたお方を忘れてい る。ただ木の十字架の重さだけではなく、世の罪の重荷がこのお方にのしかかっ た。彼らは、このお方の優しい手足に打ちこまれた残酷なくぎや、このお方が今 際(いまわ)の息であげられた「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てにな ったのですか」という、苦悩の叫びを忘れている(マルコ15:34)。彼らのために これらすべての苦しみを耐えられたにもかかわらず、彼らはキリストのために苦し むことを非常にいやがるのである。

これらの人々は、自らを欺いているのを、わたしは見た。彼らはこのことにおいて、何の役割も分もない。彼らは真理をつかむが、真理は彼らをつかんでいない。真理、すなわち厳粛で重要な真理が、彼らをつかむとき、自己は死ぬ。そのときの言葉は「わたしはあそこに行こう、ここにいよう」とはならず、真剣な問いは、「神はわたしに何をおさせになりたいであろうか。どこでわたしは最高にこのお方に栄光を帰すことができるであろうか。そしてどこで、わたしたちの一致した働きは、最善をなすことができるであろうか」となる。彼らの意志は神のみ旨のうちにのみ込まれるべきである。(教会への証 1 巻 137.138)

この地上における神の民の家庭は、できるかぎり、神が御座を持っておられる天の家庭の象徴となるべきである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1903年10月28日)

自然の単純さにおける喜び

「家は知恵によって建てられ、悟りによって堅くせられ」(箴言 24:3)

イスラエルのための神のご計画において、すべての家族は耕作のための十分 な用地がある土地に家庭を持った。こうして有益で勤勉な自活できる手段と動機 の両方が与えられた。そして、人の考案がこのご計画を改善したことはかつて一度もない。

地には、勇気を持ち、辛抱強くその宝を集めようとする人々のために、その深 みに隠された祝福がある。一片の土地と快適な家庭を持つ父親と母親は、王と 女王である。

高価な住まい、精巧な家具、見せびらかし、贅沢、安逸は、幸福で有益な生活に重要不可欠な条件を与えるものではない。イエスはこの地上にかつて人の間でなされた中で最も偉大な働きを成し遂げるために来られた。このお方は、わたしたちに人生の最高の結果を得るためには、どのように生きるべきかを示すために、神の大使として来られた。無限なる御父がご自分の御子のために選ばれた状況はどのようなものであっただろうか。ガリラヤの丘の引っ込んだ住まい、まじめで自尊心のある労働、単純な生活、困難や苦労との日々の闘い、自己犠牲、節約、そして忍耐強く喜ばしい奉仕、このお方の母親の傍らで、聖書の巻物を開いて研究する時間、緑の谷の静かな夜明けとたそがれ、自然の聖なる奉仕、創造とみ節理の研究、そして魂の神との交わり一これらがイエスの地上生活の状況であり、機会であった。(信仰によってわたしは生きる 260)

もし愛と満足さえあれば、非常に簡素な家でも趣味を働かせることによって魅力的な感じの良いものにすることができる。……

どんなに貧しくても、いなかに住んでいれば、ほとんどだれもが家の周囲にいくらかの芝をもったり、数本の木や花の咲く潅木や、かおりの高い草花を植えることができる。それがどんな人工的な装飾よりもはるかに家族を幸福にするであろう。それは家庭生活に温和な、高尚な感化をもたらし、自然を愛する愛を強め、家族の者を互に親しませ、神に近づかせる。(ミストリー・オブ・ヒーリング 340,341)

わたしの妻に感謝する

「あなたの泉に祝福を受けさせ、あなたの若い時の妻を楽しめ。」(箴言 5:18)

わたしたちの世には、自分たちに与えられるべき愛と同情に飢えている人々が多くいる。多くの男は、自分の妻を愛しているが、あまりにも利己的でそれを表さない。彼らは誤った尊厳と誇りを持ち、自分たちの愛を言葉や行いによって示そうとしない。妻の心がどれほど優しい感謝や愛情の言葉に飢えているかをまったく知らない男が多い。彼らは自分たちの見えないところに愛する者たちを葬り、彼らから伴侶を奪った神のみ摂理をつぶやくが、もし彼らの目がそうした伴侶の内なる生活を見ることができるなら、彼らは自分自身の取った行動が、その時期尚早な死の原因であったことを知る。キリストの宗教はわたしたちを親切で、礼儀正しく、またあまりにも自分たちの意見に固執することがないように導く。(教会への証3巻527,528)

日々、いろいろなわずらわしいことで、老若を問わず悩まされる。忍耐と愛の満ちた明るい生活を願うものは祈らなければならない。神から絶えず助けを得なければ、自分に勝つことはできない。

家庭は喜びと礼儀と愛が宿るところであるべきである。こうした美徳があるときに幸福と平安が来る。悩みが生ずることがあるが、それは人類が当然受けるものである。たとえ、どんなに暗い日があっても忍耐と感謝と愛によって心に光を持っているべきで、そういう家庭には神の使が宿るのである。

夫も妻も相互の幸福を計り、生活を気持よく、明るくするような細かい礼儀や、ちょっとした親切な行為を決して怠ってはならない。完全な信頼が夫婦の間にあるべきである。自分たちの責任をともに考え、ともに子供の最高の利益を計るべきで、決して子供の前でお互の計画を非難し、お互の判断を疑ってはならない。妻は子供に対する夫の働きを困難にしないように注意し、夫は妻の手をささえ、賢明な助言を与え、愛のこもった励ましを与えなさい。(ミニストリー・オブ・ヒーリング・362)

家庭で喜んで生活する

「日の下で神から賜わったあなたの空なる命の日の間、あなたはその愛する妻と 共に楽しく暮すがよい。これはあなたが世にあってうける分、あなたが日の下で労 する労苦によって得るものだからである。」(伝道の書 9:9)

夫は、型であられるお方を研究し、エペソ書の中で提示されている象徴、キリストが教会を支えている関係が、何を意味しているかを知ろうと努めるべきである。夫は、自分の家庭の中で救い主のようであるべきである。彼はその気高い、神から与えられた男らしさのうちにあり、常に自分の妻と子供たちを高めようと努めているであろうか。彼は純潔な芳しい雰囲気を自分の周りにただよわせているであろうか。彼は勤勉にイエスの愛を培い、自分の権威を行使するときに、イエスの愛を自分の家庭の永続的な原則とするであろうか。すべての夫かつ父親は、偏った方法で単に妻が自分の夫に服従することばかりを考えて、キリストのみ言葉を理解するために研究するのではなく、家族の輪の中で自分自身の立場に関してカルバリーの十字架の光の中で研究すべきである。……

イエスは、ご自分が聖霊の感化によってわたしたちをすべての罪と汚れから清め守ることができるように、ご自分を十字架上での死に渡された。(原稿リリース 21 巻 216)

神のみ言葉はわたしたちの標準であるが、このお方の民だと公言する人々は、なんとそれからかけ離れていることであろう!わたしたちの宗教的信仰は、単に理論的ではなく、実際的でなければならない。純粋で汚れていない宗教は、神の被造物の最も小さいものの権利を踏みにじることを許さない。このお方の体の肢体であり、自分自身の家族の一員であれば、なおさらである。神は愛である。そしてこのお方のうちに宿る人はだれでも愛のうちに宿る。だれかによって雲のように運ばれてくる世的な利己心の感化力は、他の人々が呼吸する大気を凍らせ、魂の病気を生じさせ、しばしば凍え死にさせる。

純潔で無我の愛と私心のない寛容を培うのはあなたにとって大きな十字架であろう。あなたの意見と考えを譲り、あなたの判断を捨てて、他の人々の勧告に従うのは、あなたにとって大きな十字架であろう。……あなたはイエスに自分のそば近くに来ていただく必要がある。あなたの家庭に、あなたの心にこのお方にいていただく必要がある。……キリストの義は、純粋で無我の動機から生じる正しい行動と良いわざによって構成されている。(教会への証3巻527,528)

生活の一致

「創造者は初めから人を男と女とに造られ、そして言われた、それゆえに、人は父母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである。彼らはもはや、ふたりではなく一体である。だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない。」 $(マタイ 19:4 \sim 6)$

キリストが治めておられるところにのみ、深くて真実な無我の愛が存在できる。 そのとき、魂は魂と結びあわされ、二つの命は調和のうちに混じり合う。(信仰によってわたしは生きる 252)

結婚の儀式が執り行われたときに完全に一致している夫婦はほとんどいない。 結婚の誓いを行う二人に語られた決まり文句が、彼らを一つにするわけではない。 彼らの将来の生活が、結婚生活における二人の混じり合いとならなければならない。 もし各々、お互いが真の心からの愛情を与えるならば、それは実に幸福な一致となることができる。

しかし、想像力が結婚に着せていたロマンスは、時がそこからはぎとる。そのとき、サタンのほのめかしを通して、思いに次の思想が入るすきを見つける、「わたしたちは思ったほど互いに愛してはいない」。その思想を思いから追い出しなさい。それをいつまでも考えてはならない。各々、自分を忘れて、サタンがあなたに考えさせたいと思うような考えをいだくのを拒否しなさい。あなたがたの愛情が互いに疎遠になるように、ほとんど理由にならないような一つ一つの小さいことに、あなたが疑い深く、嫉妬させるのが、サタンの仕事である。……ロマンスが過ぎ去ったら、各々、感情的なやり方ではなく、いかにして自分が結婚生活を神の喜ばれるようなものにできるかを考えなさい。

生涯は神からの尊い賜物であり、利己的な後悔やさらにあからさまな無関心や嫌悪感によって無駄にされてはならない。夫と妻は何でも一緒に話しなさい。互いへの初めのころの関心を新たにし、互いに自分の過ちを認めあいなさい。しかし、この働きをするときに、夫が妻の過ちを告白することを引き受けたり、妻が自分の夫の過ちを告白したりすることのないよう、非常に気をつけなさい。あなたは、互いのために自分が可能な限りすべてになることを決心しなさい。そうすれば、結婚の契りは最も望ましい絆となる。あなたの家庭は、天の象徴となることができる。(天国で 203)

積極的に離婚を避ける

「あなたがたはみずから慎んで、その若い時の妻を裏切ってはならない。イスラエルの神、主は言われる、「わたしは離縁する者を憎み」(マラキ 2:15,16)

多くの結婚は、ただみじめさを生みだすばかりであるが、なお若者たちの思いは、この流れへと走る。なぜなら、彼らが自らを制することも家族を養うこともできないときに、幸せになるためには結婚しなければならないとサタンが信じ込ませることによって、そこへ導くからである。不愉快な不一致や争いを避けるために、自らをお互いに相手の気質に合わせるつもりのない人々は、結婚に踏み込んではならない。(教会への証 5 巻 122,123)

すべての夫婦にとって、慎重に相手の感情を傷つけることを避けることは義務である。彼らはすべてのいらだちや感情的な顔つきを制すべきである。彼らは、大事においてと同様に小事においても優しい思いやりを示すことによって、また親切な行為や小さな礼儀を認めることによって、互いの幸せを研究すべきである。これらの小さい事柄はなおざりにされるべきではない。なぜなら、それらはちょうど食物が体力を維持するのと同様に、男女の幸福にとって重要だからである。父親は、妻であり母親である者に、自分の大きな愛情に頼るよう励ますべきである。彼からの親切で快活な励ましの言葉は、生涯の幸福を彼に預けた者にとって、どんな薬よりも益がある。そして妻であり母親である者の心にもたらすそのような同情の言葉の快活な光線は、自分自身の快活な光線を父親の心にも反射するのである。(レピュー・アンド・ヘラルド1899年7月18日)

神の御霊が統治なさる所では、結婚関係における不相応について語られることはない。

困難や困惑や失望が生じるであろうが、夫も妻も自分たちが一緒になったことが過ちあるいは失望であったという考えを抱いてはならない。互いにとって、可能な限りすべてのものになろうと決心しなさい。初めのころの関心を持ち続けなさい。あらゆる方法によって、人生の闘いを戦うときに互いに励まし合いなさい。互いの幸福を向上させるために研究しなさい。相互の愛、相互の寛容があるようにしなさい。そのとき、結婚は、愛の終焉となる代わりに、まさに愛の出発点となる。(信仰によってわたしは生きる 253)

今日の一般的な姦淫を遠ざける

「すべて自分の妻を出して他の女をめとる者は、姦淫を行うものであり、また、 夫から出された女をめとる者も、姦淫を行うものである。」(ルカ 16:18)

わたしたちの救い主はその警告の中で、世の終わりがどのようになるかをわたしたちに教えて下さった。このお方は次のように仰せになる。「人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう。すなわち、洪水の出る前、ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていた。そして洪水が襲ってきて、いっさいのものをさらって行くまで、彼らは気がつかなかった。人の子の現れるのも、そのようであろう」(マタイ 24:37~39)。キリストは非常にはっきりと将来の社会の状態がどうなるかをご覧になった。このお方は自己放縦が男女を支配するのをご覧になった。今日結婚関係はどうなっているであろうか。それはゆがめられ、汚され、ノアの時代のようになっているのではないだろうか。離婚に次ぐ離婚が毎日の新聞に掲載されている。これこそ、キリストが洪水前に彼らは「めとり、とつぎなどしていた」と言われたときに示しておられる結婚の状態である。(原稿則-ス7巻56)

神は男に一人の妻をお与えになった。このお方が男にとって一人より多くの妻を持つのが最善だと思われたなら、容易に二人お与えになることがおできになった。しかし、このお方はそのようなことは認可なさらなかった。(ユース・インストラクター1899 年 8 月 10 日)

わたしが自分の聖書を読むとおり、もしあなたの妻があなたから離婚したとしても、あなたが自由に再婚しても良いということにはならない。(性的態度、姦淫、離婚における証 208)

若い人の心では、結婚というものがロマンスでおおわれているので、想像によって結婚をおおっているこのロマンスという特色をとり去って、結婚の誓約に含まれている重い責任感を心に印象づけることは困難である。この誓約はふたりの運命を死の手しか断つことができないきずなで結び合わせる。

婚約はすべて慎重に考慮されなければならない。なぜなら結婚は一生の歩みだからである。男女共に、彼らが生きながらえる間、人生の浮き沈みを通して互いに離れずついて行けるかどうかを慎重に考慮しなければならない。(アドペンチスト・ホーム 382)

自分たち自身の向こう側を見る

「男子は婦人にふれないがよい。しかし、不品行に陥ることのないために、男子はそれぞれ自分の妻を持ち、婦人もそれぞれ自分の夫を持つがよい。夫は妻にその分を果し、妻も同様に夫にその分を果すべきである。妻は自分のからだを自由にすることはできない。それができるのは夫である。夫も同様に自分のからだを自由にすることはできない。それができるのは妻である。」(コリント第一7:1~4)

夫と妻は、自分たちの間で愛のしるしを取り交わす互いの交わりのプライバシーを慎むことを、自分たちの特権であり、義務であると感じるべきである。しばらくのあいだ、お互いの愛を表すことはしかるべき場所で正当であるが、既婚者にも未婚者にも害をもたらすかもしれない。全く違った種類の思いや品性、また違った種類の教育や訓練の人々がいて、自分の愛情を自由に表すように自ら教育してきた人々とまったく同様に、献身的にまた健全にお互いを愛する人もある。そして、これらの二人の対照性によって、より慎み深い人々が誤解され、不利になる危険性がある。妻は敬意と服従をもって自分の夫により頼むべきである一方、健全で健康的な方法で、自分が生涯のつれ合いとして選んだ男性への強い愛情と信頼を表すことができる。……

結婚生活においてお互いを幸せにするのがクリスチャンの高尚な特権であり、 厳粛な義務であるが、全く夢中になり、愛情の富をすべて互いに対して注ぎ出し、 そのような生活にすっかり満足してしまうのは、明らかに危険である。これらは みな、利己心のにおいがする。

自分たちの愛と同情を自分たちの中に閉じ込めておく代わりに、彼らは他の人々の益のために貢献するすべての機会をとらえ、神の御目には彼らとまったく同様に尊く、このお方のひとり子の無限の犠牲によって買われた魂への純潔で聖なる愛のうちに、豊かな愛情を分かつべきである。

親切な言葉、同情のまなざし、愛情の表現は、多くの苦闘する孤独な人々にとって、渇いた魂への一杯の冷たい水のようである。(天国で207)

不信者の配偶者に対するキリストのような愛

「そのほかの人々に言う。これを言うのは、主ではなく、わたしである。ある兄弟に不信者の妻があり、そして共にいることを喜んでいる場合には、離婚してはいけない。また、ある婦人の夫が不信者であり、そして共にいることを喜んでいる場合には、離婚してはいけない。」(コリント第一7:12,13)

ある母親が自分の夫は不信者だと言う。彼女には子供たちがいるが、彼らは 父親から母親を軽蔑するように教えられている。彼女は自分の子供たちのために 深く重荷を感じている。……

あなたが遭っている試練は、非常に苦しい種類のものであろう。あなたはしばしば自分に示される軽蔑のために心に痛みを覚えることであろう。しかし、わたしはあなたの子供たちの世話をすることがあなたの義務にちがいないことを確信している。これはあなたが定められた働きをする伝道地である。それは、岩だらけで労するのに失望させる土地であろうが、ひるまず、良心的に、あらゆる失望させる状況にもかかわらず、自分の義務を果たすためのすべての努力において、あなたには連れ添って下さるお方がおられる。イエスがあなたの助け手であられる。イエスは失われ滅びつつあるある魂を救うためにわたしたちの世に来られた。そしてあなたはこの働きにおいて自分が神と共に働く共労者であるとみなすべきである。……あなたの夫をいつでも親切に扱いなさい。そして子供たちをあなたの心に愛のひもで結びなさい。これがあなたの働きである。これこそ、あなたが負うべき重荷である。あなたの家庭の試練をイエスの他だれにも話してはならない。それらをイエスの耳に入れなさい。(原稿リース3巻369,370)

自らを聖書の方法と手段のうちに教育し、自分自身の家庭で成功した働き人になれるようにしなさい。……不愉快だからと言って、自分の義務の地位を捨ててはならない。今日、沈黙のうちに苦しんでいる生きた殉教者が多くいる。彼らは舌をもって虐待されているときに神に信頼する人、からかわれている人、粗野で無情な非難によって痛みを覚え、傷ついている人、あたかも生きて苦しむのがその人の分であるかのような、ただ自分たちの力の源であられるイエスからのみ慰めを受けている人、このような魂は伝道者である。彼らはキリストの貴い人々であり、彼らの名は小羊の命の書に記されている。

これを覚えていなさい。イエスはそれらすべて一すべての悲しみ、すべての悲 嘆一をご存じである。このお方はあなたが沈むがままにはなさらない。なぜなら、このお方のみ腕はあなたの下にあるからである。(同上 372)

結婚のうちにある伝道地

「なぜなら、妻よ、あなたが夫を救いうるかどうか、どうしてわかるか。 また、夫よ、 あなたも妻を救いうるかどうか、 どうしてわかるか。」(コリント第一 7:16)

ただ一度の人生がわたしたちに与えられている。そして心遣い、骨折り、自制によって、それは耐えられるもの、快いもの、そして幸福なものにさえなる。

自分たちの生涯の利害を結合させたすべての夫婦は、互いの生涯をできる限り幸福なものにするよう努めるべきである。わたしたちが重んじるものを維持し、できることなら、ますます価値あるものにするように努めるべきである。結婚の契約によって、男女は取引、すなわち生涯の投資をしたのであって、彼らは自分たちの短気やいら立ちの言葉を制するよう、自分たちの結婚以前よりさらに注意深く、最善の努力をなすべきである。なぜなら、今や彼らの運命は、生涯の間、夫と妻として結合しており、結婚前にあれほど熱心に求め、重んじていた愛を維持し、生き生きと保つために払う骨折りと努力の量にちょうど比例して、それぞれの価値が量られるからである。(この日を神と共に335)

失望させる言葉があなたに向かって語られたとき、心地よい返答ができない限り、答えてはならない。あなたが不親切な言葉で試され、誘惑されるときに、復讐してはならない。自ら「わたしはわたしの救い主を失望させることはしない」と言いなさい。すべてのクリスチャンである男は紳士であり、すべてのクリスチャンである女は淑女である。親切の律法がいつもクリスチャン女性の唇にある。彼女は性急な言葉を口にしない。あなたがいらだちを感じるときに親切な言葉を語ることは、あなたの心の中に日光をもたらし、あなたの道をよりなめらかにする。学校の女生徒が質問に答えて、「柔和な人というのは、荒々しい質問に対して柔らかい答えを返す人です」と言った。キリストは、「柔和な人たちは、さいわいである、彼らは地を受けつぐであろう」(マタイ5:5)。彼らは天の王国にふさわしいものとされる。なぜなら、彼らは教えられることを喜ぶからである。

あなたは自分の夫がまだ真理に改心していないと言う。彼にあなたの生活に おいてキリストをその言葉通りに信じることの優位性を示しなさい。忍耐、寛容、 親切によって、あなたは自分の夫を救い主に勝ち取ることができる。

神の恵みの力のうちに、あなたは最も貴重な勝利を得ることができる。あなたは自分の人生をロマンスとしてではなく、現実として扱うべきである。(原稿リリース8巻442,443)

屈服と愛

「妻たる者よ、夫に仕えなさい。それが、主にある者にふさわしいことである。 夫たる者よ、妻を愛しなさい。つらくあたってはいけない。」(コロサイ3:18,19)

家庭にいる真の女性は宝である。そして、彼女は尊重されるべきであり、感謝されるべきである。しばしば次の質問がなされる、「妻は自分自身の意志をもってはいけないのか」。聖書は、夫が家族の頭であることをはっきりと教えている。「妻たる者よ、夫に仕えなさい」。もし、この命令がここで終わっているならば、わたしたちは妻の立場はうらやむようなものではないと言えるであろう。それは非常に多くの場合、非常に厳しくつらい立場であって、結婚が少なければ少ないほど良いであろう。多くの夫は、「妻たる者よ、……仕えなさい」というところで、言葉を止める。しかし、わたしたちは同じ命令の結論に、「主にある者にふさわしい」とあるのを読む(コロサイ3:18)。

神は妻が常に自分の前に神への畏れとその栄光をおくようにと要求しておられる。完全な屈服は、ただご自分の命という無限の価をもってご自身の子として彼女を買われた主イエス・キリストにのみ捧げられるべきである。神は彼女に良心をお与えになったのであり、それを犯しては、刑罰を受けずにはすまない。彼女の個性は自分の夫の中に吸収されてはならない。なぜなら、彼女はキリストに買われたものだからである。盲目的な献身をもって、彼女が万事につけ自分の夫の言いなりになり、サタンの奴隷からあがなわれた自分の体と精神に害をなすと知りながらも、そうすべきだと思うことは間違いである。妻にとって夫よりも高くいらせられるお方がある。それは彼女の贖い主であられ、彼女の夫への服従は、神がお命じになった通り、「主にある者にふさわしい」ものとして捧げられなければならない。

夫が自分の妻に完全な服従を要求し、女には家庭において何の声も意志もなく、ただ完全な服従を捧げるべきだと宣言するとき、彼らは自分たちの妻を聖書に反する立場に置くのである。……わたしたちは続けて、「夫たる者よ、妻を愛しなさい。つらくあたってはいけない」とあるのを読む(19節)。なぜ夫が自分の妻につらく当たるべきであろうか。もし夫が、自分の妻が間違いを犯し、欠点だらけであるのを見出したとしても、つらく当たる精神は悪の治療法とはならない。(原稿リリース13巻74.75)

わたしの夫に順応する

「キリストが教会のかしらであって、自らは、からだなる教会の教主であられるように、夫は妻のかしらである。そして教会がキリストに仕えるように、妻もすべてのことにおいて、夫に仕えるべきである。」(エペソ 5:23,24)

親愛なるT姉妹。わたしはあなたの宗教生活に欠陥があることを示された。 あなたはあまりにも闘争的な精神を持ちすぎてきた。あなたが自分で考え行動す ることはあなたの特権であるが、それをあまりにもやりすぎる。あなたは謙遜より も独立心を持っている。あなたはなだめるよりも、いらだたせるような道を取って きた。あなたは真理を擁護して立つために、堅固さを持つ必要があった。しかし、 あまりにもしばしば、神が非常な価をもって評価なさる柔和でしとやかな精神を 持っていないという点において過ちを犯してきた。あなたの家族の中で、あなた は反対や真理への明らかな嫌悪の表れに会ってきた。しかし、あなたはこれらの 試練に対して、最上の方法で対応してこなかった。あなたはあまりにも口数が多 く、あまりにも積極的すぎる。あなたは家族のための、とくに自分の夫のための あなたの努力に、愛と優しさをあまりにもわずかしか混ぜてこなかった。あなたは、 主張を極端にもっていき、物事をやりすぎ、癒すよりも傷つけてしまう危険性が ある。あなたが真理の原則を犠牲にすることなく、自分の判断を譲ることができ るときは、自分が正しいと思ってもそうする方があなたのために最善である。あな たには、夫に同化吸収させることのできない責任があり、固有性がある。しかし なお、あなたがたを一つにする絆があるのであり、多くのことにおいて、もしあな たがもっと譲る者であれば、そのほうがあなたの夫にとって、あなたの子供たち にとって、そしてあなた自身にとってはるかに良いのである。あなたはあまりにも 厳密すぎる。あなたは自分と違っている人々の信頼を得ようと努めない。あなた は有利なことがあるとそれにすばやく気づき、最大限に活用する。もしあなたが もっと麗しい愛のまじり合った寛容さを持っているなら、そしてもしあなたがキリ ストのために、多くのことを利用したり、やりすぎたりせず、それによって不快な 感情を生じさせないなら、感化力はより良い、より救うものとなる。(教会への証 2 巻 436, 437)

[R 姉妹]、あなたは自ら自分の願望や願いを否定するようにし、あなたの夫があなたに合わせなければならないと感じるように導びくべきではない。……女性になりなさい、きまぐれな子供ではなく。(同上433)

わたしの妻を優しく保護する

「夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。……それと同じく、夫も自分の妻を、自分のからだのように愛さねばならない。自分の妻を愛する者は、自分自身を愛するのである。自分自身を憎んだ者は、いまだかつて、ひとりもいない。かえって、キリストが教会になさったようにして、おのれを育て養うのが常である。」(エペソ5:25,28,29)

わが兄弟よ、とげとげしく同情心のないあなたの言葉は、切りつけ傷つける。 あなたにとって非難し欠点を見つけるのは非常にたやすいことであるが、それは 不幸を生み出すだけである。あなたが他の人々に語る言葉が、もしあなたに語ら れたなら、あなたはすぐに憤慨することであろう。あなたは親切で優しく同情的 であることを弱さとして見ており、優しく、親切に、愛情をもって自分の妻に話す ことは、自分の尊厳を低めると考えている。ここであなたは、何が真の男らしさ と尊厳を構成しているかについて誤っている。親切な行為をせずにそのままにし た気質は、あなたの品性における弱さと欠点の表れである。あなたが弱さだと見 ているものを神は真のクリスチャンの礼儀、すなわち、すべてのクリスチャンが働 かせるべきものだとみなされる。なぜなら、これこそ、キリストが表された精神 だからである。(教会への証 2 巻 256)

夫また父親が、イエス・キリストに従う者の保有すべき尊厳のある信心深い 男らしさを持っていない家族がある。彼は自分の妻、すなわち自分が神と天使の 前で、二人が生きている間、愛し、敬い、尊ぶと約束した妻になすべき親切で 優しい礼儀のある行為を表してこなかった。働きのために雇った女の子は自由奔 放で、彼の髪を整えるためにいささか積極的な注意を払い、愛情をこめて気遣う かもしれない。そのとき、彼は喜び、愚かしいほど喜ぶのである。そして、彼は かつて現したほどの注意と愛を自分の妻には表していない。ここでサタンが働い ていることは間違いない。あなたの雇った助け手を尊重し、親切に思いやり深く 扱いなさい。しかし、それ以上進んではならない。あなたのふるまいが、あなた の助け手からの親しみへと進展するようなものにならないようにしなさい。もしあ なたが親切な言葉や礼儀正しい行為を与えるとしたら、それらを自分の妻に対し て与えるのが、いつも安全である。それは彼女にとって大きな祝福となり、彼女 の心に幸福をもたらし、それがあなたに再び反射して戻ってくるのである。(厳粛 な訴え 155,156)

わたしの夫への敬い

「いずれにしても、あなたがたは、それぞれ、自分の妻を自分自身のように愛しなさい。妻もまた夫を敬いなさい。」(エペソ 5:33)

女が自分の家族の問題を、あるいは自分の夫についての不平を、他の男に語るとしたら、彼女は結婚の誓いを破っているのである。彼女は自分の夫を辱め、結婚関係の神聖さを守るために建てられた防壁を崩しているのである。彼女はサタンがその狡猾な誘惑をもって入るように戸を広く開き、招いている。これはまさにサタンがそうあればと望んでいることである。もし女がクリスチャンの兄弟のところに自分の悩みの話を持ってくるなら、彼はいつでも彼女に、もし自分の問題をだれかに打ち明けなければならないとすれば、自分の信頼する相手に姉妹を選ぶように助言すべきである。そうすれば、それによって神のみ事業が非難を受けるような悪の外見はないであろう。(教会への証2巻306)

妻が自分の同情と関心と愛情を自分の夫以外の他の男に出ていくのを許すことがある。彼は彼女が信頼している家族の一員で、彼女が自分の問題、またおそらくは家族のプライベートな問題を話している人かもしれない。彼女は彼との親睦を欲していることを示している。

この根底にはサタンがいる。そして、彼女が危機感を持ち、自分のいるところで止まらないならば、彼は彼女を破滅へと導く。わが姉妹がたよ、あなたはこのことについて警戒しすぎることはない。もしあなたが優しい愛の言葉と親切な注意を与えるとすれば、それらをあなたが天使たちの前で、二人が生きている間は愛し、尊び、敬うと約束した人に与えなさい。ああ、何と多くの人生が、すべての家族のプライバシーを封じ、純潔と神聖さを保つために意図された防壁が崩されたことによって苦々しいものとされたことであろう!第三者が妻の信頼の中に取り入れられ、彼女の家族のプライベートな問題が特別な友人の前に明らかにされる。これはサタンが夫と妻の心を疎遠にさせるための策略である。ああ、これが止むように!なんという問題に満ちた世界を避けることができることであろう!お互いの欠点を自分自身の心のうちに秘めておきなさい。あなたの問題を神にだけ告げなさい。このお方はあなたに正しい勧告と確かな慰めを与えることがおできになり、それは純潔でその中に何の苦々しさもないのである。(厳粛な訴え 156,157)

模範によって感化を与える

「同じように、妻たる者よ。夫に仕えなさい。そうすれば、たとい御言に従わない夫であっても、あなたがたのうやうやしく清い行いを見て、その妻の無言の行いによって、救に入れられるようになるであろう。」(ペテロ第一3:1,2)

あなたは真理に対して熱心である。あなたはそれを愛し、そのために何か投資したいと願っている。それはみな正しいことであるが、あなたが他の人に与える教訓は、模範によって裏付けされていることを確かめなさい。あなたは平和を求めなければならない。あなたは、真理の原則を一つも犠牲にしないで、そうすることができる。あなたは激しく飛び出し、自分のやり方を押し通してきたが、今あなたが自分の感化力をおだやかなものとし、芳しく、和らげる必要がある。どこでも平和がそのみ跡に続いたお方の無害な生涯を模倣しなさい。

わが姉妹よ、あなたは進んで学び、進んで勧告を受けるものとならない限り、神の民にとって試練となるであろう。あなたは自分がそれをすべて知っていると感じて続けてはならない。あなたが神のみ前に完全になることができる前に、あなたが学ばなければならないことがたくさんある。学ぶべき最もうるわしい最高の教訓は、謙遜の教訓である。「わたしに学びなさい」と謙遜なナザレ人は言われる。「そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」(マタイ 11:29)。この柔和、寛容、忍耐、そして愛の教訓を、あなたはまだこれから学び実践しなければならない。あなたは祝福となることができる。あなたは助けを必要としている人を助けることができる。しかし、あなたは自分の量りひもを下におかなければならない。なぜなら、それはあなたが用いるべきものではないからである。裁きにおいて間違うことのないお方、すなわちわたしたちの堕落し腐敗した性質の弱さを理解されるお方が、自ら標準を持っておられる。このお方は聖所の秤で量られる。そしてこのお方の正しい計量を、わたしたちはみな受け入れるのである。

あなたは自分の夫に対するふるまいにおいて過っている。あなたは彼に対してもっと優しさと尊敬を培う必要がある。あなたは厳しすぎる。あなたは事態を極端に運び、自分自身の魂と真理に害を及ぼしている。あなたは真理を、嫌悪を催すようなものにし、魂がそれを恐れるようにしている。愛があなたの言葉を和らげ、あなたの行動に色合いを与えるようにしなさい。そうすれば、あなたは自分の交わる人々のうちに変化を認めるようになる。そこには争い、嫉妬、不和の代わりに平和、一致、調和があるであろう。愛と優しさを、とくにあなたの家族のうちに働かせなさい。そうすれば、あなたは祝福を受ける。(教会への証2巻438.439)

あまりにもしばしば妨げられる夫の祈り

「夫たる者よ。あなたがたも同じように、女は自分よりも弱い器であることを認めて、知識に従って妻と共に住み、いのちの恵みを共どもに受け継ぐ者として、尊びなさい。それは、あなたがたの祈が妨げられないためである。」(ペテロ第一3:7)

わたしたちの祈りは、自分の心の誇りによって、欠点を告白し、悪い印象を取り除くことを拒むことによって妨げられている。(この日を神と共に19)

L氏は、自分の妻への愛、すなわち言葉や行いに表現を見出す愛を培う必要がある。彼は優しい愛情を培うべきである。彼の妻は繊細で依存心の強い性質をもっており、大事にされる必要がある。すべての優しい言葉、すべての感謝や愛情深い励ましの言葉は彼女に覚えられ、それが自分の夫への祝福となって反射される。彼の同情心のない性質は、キリストとの密接なつながりのうちに入れられる必要がある。それによってその堅苦しさと冷たい自制が神聖な愛によって征服され、やわらげられるためである。自分の妻に対して優しさや同情を言葉や行為に表現することは、弱さでも、男らしさや尊厳を犠牲にすることでもない。(教会への証3巻530,531)

わたしたちは力の限りを尽くして、すべてのつまずきの石を取り除くべきである。 ……あなたはできるかぎり、すべて譲歩しなさい。苦しんでいる思いに、もう一 歩進んだ謙遜や、優しい心の関心が取り除くことのできる誤解を残したままにし てはならない。サタンは確実に誤解させるための誘惑をもってその思いのところへ やって来て、モグラ塚から山を作りだすのである。傷ついた感情にたやすくつま ずく思いは、あらゆる種類の誤った考えを思い描く。(この日を神と共に19)

あなたは他の人々の生来の独立心を尊重すべきことを覚えていなければならない。もしあなたの妻が自分の働きを自分に都合のよいように行うとすれば、あなたには彼女の事柄に干渉したり、いらだったり、彼女のやりくりに対するあなたの多くの助言や小言で彼女に重荷を負わせたりする権利はない。……

あなたの妻を自分の意志の奴隷にするために努力してはらない。かえって、親切と、彼女の快適さと幸福を促進しようとする無我の願いによって、彼女をあなた自身との密接な同情のうちにひきよせなさい。彼女に自分の才能を働かせる機会を与えなさい。(教会への証4巻139,140)

「黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ (III)」

Reformation Herald Publishing Association

III- 教会が自分の運命を決定する

アドベンチストの間では、一般的に「もう一人の御使のメッセージ」が拒まれたことは知られていません。

1. メッセージは拒まれた

ホワイト姉妹は次のように記しました。

「わたしたちの集会はまもなく閉じようとしているが、一つの告白もなされてこなかった。神の御霊に入っていただくような好機は一つとしてなかった。 今わたしは言う、もしここにいる人々がただ民から神の御霊を締め出すだけならば、いったいわたしたちがここで共に集会をし、牧師である兄弟たちが集まることに何の益があるのか。……もし牧師たちが光を受けないならば、わたしは民に機会を与えたい。もしかすると、彼らはそれを受けるかもしれない。」(原稿 No.9 1888 年)

「もし光がすべての人を喜ばせるような方法で来ることを待つなら、あなたはむなしく待つことになる。もしあなたがより大きな声での召しやより良い機会を待つなら、光は取り去られ、あなたは闇の中に取り残されることになる。神が送られるすべての光線をつかみなさい。従順には十字架が伴うからといって、御霊と神のみ言葉の召しに注意を払うことをなおざりにする人々は、自分たちの魂を失うことになる。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1888 年 12 月 18 日)

「わたしは自分がメッセージを理解したとおりにあなたがたに提示しようと努めてきた。しかし、働きの頭は、いったいいつまで自分たちを神のメッセージから

超然と無関心でいつづけるのであろうか。」(レビュー・アンド・ヘラルド1890年3月18日)

「もし彼らがわたしの担ってきたメッセージの中に主の御霊を認めてこなかったならば、彼らは今はますます認めないことであろう。なぜなら、わたしは、善が訪れたときに彼らが認めることのできなかった、彼らの魂を取り囲んできた精神、抵抗、疑い、不信に抵抗する力はなかったからである。わたしは不信者に語る方がはるかにもっと自由である。彼らは関心を持っている。彼らは神の御霊によって印象づけられるのを感じ、これらの言葉が神の御霊の霊感の下に語られているようだと言う。

ああ、責任のある立場にいる人々に光がもたらされたところは、語るのに世の中でもっとも困難な場所である。彼らは光を受けてきたが、光よりも闇を選んできた。……」(手紙 32 w 1890 年)

「キリストの拒絶者を動かしたのと同じ精神が、彼らの心のうちにうずいており、もし彼らがキリストの時代に生きていたなら、彼らは神のない不信心なユダヤ人と同じような方法で、このお方に対して行動したはずである。」(レピュー・アンド・ヘラルド事務所への証 16,17)

「わたしはミネアポリスで経験したこと、また人々を支配していた霊に関してそのときにわたしに明らかにされた事柄、悪の勢力への服従のうちに語られた言葉、なされた行為を決して忘れることができない。……彼らは集会で別の霊によって動いていた。」(手紙 24s,1892 年)

「〔E.J.〕ワゴナー兄弟と〔A.T.〕ジョーンズ兄弟を通して与えられた主のメッセージに対するミネアポリスで表された反対の根底の大部分には、先入観のある意見を譲り、この真理を受け入れたくない心がある。……全地をその栄光によって明るくすべき光が拒まれた。そしてわたしたち自身の兄弟たちの行動によって、それは大いに世から遠ざけられてきたのである。」(セレクテッド・メッセージ1巻234,235)

「もしサタンが真理を信じると主張する人々の思いに印象づけ、感情をかきた て、こうして彼らを悪の勢力と結合させるために導くことができれば、彼は大いに 喜ぶ。いったん彼らに自らを悪の方に委ねさせることができれば、サタンは彼らを長い旅へと導くために自分の計画を講じるのである。……

わたしは、世界総会に集まるわが兄弟たちにラオデキヤ人へのメッセージに注意を払うよう嘆願したい。なんという盲目の状態が、彼らのものであったことであろう。この主題〔1888年のメッセージ〕に、何度も何度もあなたがたの注意が促されてきた。しかし、自分の霊的な状態に対するあなたがたの不満足は、改革をなしとげるほど深くもなく、痛みを伴うものでもなかった。「あなたは、自分は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もないと言っているが、実は、あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない」。自己欺瞞の罪がわたしたちの教会の上にある。(O.A. Olsen への手紙, 1892年9月1日O.19, d'92)

「わたしたち自身の民が、信仰によるキリストの義についての真理の光を拒むことによって、神の働きに反対した。これこそ、彼らが受け入れるべきであり、心と声とペンをもって鳴り響かせるべきものであった。しかし、光がこの働きの中心にいる人々にもたらされたとき、彼らはそれをどのように取り扱うべきかを知らなかった。」(牧師への証 401,402 (1897年))

「わたしたちはこの地上において、世に対する神のメッセージを担っている人々に対する迫害の精神に、ほんのわずかでもふけることなど考えられない民となるべきである。これはミネアポリスの集会以来、わたしたちの間でその姿を表してきたもっと恐ろしいキリストに似ていない特徴である。しばらくすると、その真の意味が、そこから生じる苦悩のあらゆる重荷と共に見られるようになるであろう。」(世界総会冊子 1893 年 184)

「ミネアポリスで起こったことにおいて犯された罪は天の書物に記録として残っている。……そしてこれらの人々が試され、またその状況になれば、同じ精神が表されるであろう。主が彼らを十分に試されたとき、もし彼らがこのお方に屈服しないならば、このお方はご自分の聖霊を引き上げられる。」(O. A. Olsen への手紙 1892 年 9 月 1 日 O. 19, d'92)

Memo

(48 ページの続き)

はこの大きな悪をおこなって、神に罪を犯すことができましょう」と叫んだのである(創世記 39:9)。神の恵みが、彼を誘惑者に抵抗できるようにさせたのである。がは神の戒めを守るという彼の目的の堅固さゆえに投獄された。しかし、牢獄の壁は天の恩寵の光を締め出すことも、彼の神聖な生活における進歩を妨げることもできなかった。なぜなら、「主はヨセフと共におられて彼にいつくしみを垂れ」られたからである(創世記 39:12)。そして主は徳という尊い恵みを加え、天の律法を犯すことを恐れるすべての魂と共におられるのである」(ルビュー・アンド・ペラルド 1888 年 2 月 21 日)。

「もしあなたが本当にキリストに属するものであれば、あなたはこのお方のた めに証言する機会を得るようになる。あなたは娯楽の場所に行くよう招かれる であろう。そのときこそ、あなたが自分の主のために証をする機会である。 しあなたがキリストに対して真実であるなら、そこに出席しないことに対して い あけ 言い訳をとりつくろうようなことはしない。かえって率直にかつ謙虚に、あなた が神の子であって、あなたの原則は、自分の主のご臨在を招くことができな ゆる い場所へあなたが行くことを一度たりとも許さないと宣言するのである。…… だいりしゃ わたしたちは聖霊を受けなければならない。そしてその代理者を通して、罪人 は、イエスのうちにこそ、地上の喜びに勝る喜びが見出されるのだという事実を 印象づけられる。……キリストは「わたしから離れては、あなたがたは何一つで きない」と言われる(ヨハネ15:5)。であるから、必ずイエスに心を開きなさい」(コ -ス・インストラクター 1893 年 5 月 4 日)。宇宙の尊厳ある統治者として、このお方は 個人的に、「あなたがたを守ってつまずかない者とし、また、その栄光のまえに きず もの よろこ た くだ 傷なき者として、喜びのうちに立たせて下さるかた」なのです (ユダ 24)。

ミネストローネスープ (4人分)

〔材料〕

キドニービーンズ4カップオリーブオイル大さじ2たまねぎ (大)1 (みじん切り)セロリ1本 (スライス)にんにく2片 (みじん切り)

 水
 4カップ

 バジル
 小さじ2

 カットトマト
 缶詰 1

 シェル・マカロニ
 1/2カップ

 人参(中)
 1本(ダイス切り)

 ズッキーニ
 2カップ(ダイス切り)

塩 大さじ1

「作り方」

フライパンに油をしいて熱し、たまねぎとセロリを加え、やわらかくなったら、さらににんにくを加えて、やわらかくなるまで炒めます。

水、塩、ビーンズとバジルを加え、沸騰したら、とろ火にして、一時間煮ます。トマトの缶詰とマカロニを加えます。もう一度沸騰させます。(この時点で、お好みにより、水を加えて下さい。)火を弱めてマカロニが半分煮えるまでとろ火にかけます。

人参を加え、さらに 5 分煮ます。

ズッキーニを加えて、さらに5分もしくは人参とズッキーニが、やわらかくなるまで煮ます。(野菜をあまり煮すぎないようにご注意ください)

夏野菜の定番です。お好みでピーマンやなすを入れても。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校: 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教:11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究:14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先:〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱13号「福音の宝」係 是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよ みもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全 に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



わたしの右におられる王

「わたしは常に主をわたしの前に置く。主がわたしの右にいますゆえ、わたしは動かされることはない。このゆえに、わたしの心は楽しみ、わたしの魂はなる。 たっといる。 なっとした。 たっというない。 このゆえに、わたしの心は楽しみ、わたしの魂はない。 きょうことになった。 おんしの身もまた安らかである。」 (詩篇 16:8,9)

この聖句の中では、何が幸福のかぎとして与えられていますか?主を常にわたしたちの前に置き、このお方の威光をわたしたちの右に持つことです。もしずから、またがこれほど近くにおられるなら、このお方はわたしたちのなすすべてのことに尊厳と誉れと保護をもたらすことがおできになります。

主がたえずご臨在なさるのですから、わたしたちはこのお方がそこにおられることを心に留めましょう。わたしたちは一人ではないのです。わたしたちを動け、気が、力づけて下ざるわたしたちの良い羊飼いがおられます。ときには、わたしたちは正しい道から外があるよう誘惑されるかもしれません。しかし、もしわたしたちが自分たちと共に主がおられることを覚えていれば、倒れることをまぬかれます。時には地上の麦だちがわたしたちを、行くべきではない場所に行かせようとしたり、すべきではないことをさせようとしたり、言うべきではないことを言わせようとしたりするかもしれません。しかし、「主なるお方は、そこへ行かれたり、あるいは悪いことをなさるでしょうか?いいえ、まったくそんなことはありません! そしてこのお方に看にいていただき、このお方が備えて下さる真のちざるできていたのしむほうが、この作が美し出すどんなものよりもいいのです。

「若いクリスチャンは、厳しいテストと試練を受けるであろう。サタンは、…… あなたを永遠の命へ導く狭い道から離れさせようとして、あらゆる魅力的なものを提示するであろう。しかし、あなたは主イエス・キリストの忠実な兵卒であらたなければならない。ヨセフは、青年がいかに世の悪のただ中で汚点なくなっち、自分の信仰に徳を加えることができるかという模範である。家庭の抑制から遠く離れた異国の地で捕囚であったにもかかわらず、彼は自分の前に神への畏れを置き、悪にふけるように激しく試みられたときに、彼は「どうしてわたし